

しもの診療所だより 11月号

今月は、高尿酸血症のお話です。以前は『ぜいたく病』とも呼ばれていましたが、最近では肥満者を中心に激増しており、生活習慣病の中でも最もポピュラーな病気の1つとなっています。高尿酸血症では、通常症状はありませんが約10%で、間接に尿酸の結晶がたまり、急性関節炎の発作が引き起こされます。この状態を痛風と呼びます。その他、尿路にたまると、腎結石や腎臓障害などの原因となることも知られています。

痛風関節炎は、足の親指の外側付け根付近によく起こります。

「風が吹いても痛い」ことから「痛風」の名前が由来したといわれるほどの激しい痛みが3～4日続いた後に、自然にまったく治ってしまうのが特徴です。

血清尿酸値が男女問わず7.0mg/dlを超えたら高尿酸血症となります。肥満で高尿酸血症の方は、過食に注意し標準体重を目標に減量することが大切です。生活習慣を改善でも高尿酸血症が続くようなら内服治療が必要になります。

しもの診療所 院長 川井 祐輔